

報恩寺だより

No. 49

2019年3月15日発行
おたすけ観音 報恩寺
綾瀬市寺尾南2-10-1
電話0467-78-7160
FAX 0467-79-1567

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、かねてより檀信徒の皆様のご協力のもと、準備を進めて参りました晋山式が近づいてまいりました。これまで諸処において、ご指導いただきました皆様のおかげで、晋山式を執り行えることに心より感謝申し上げます。
下記の通り、晋山式法要を開催したいと存じます。ご多忙中恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

■期 日

2019年5月18日（土）

受付 8時より11時まで

■日 程

午前8時頃

稚児行列 寺尾南自治会館出発

午前8時30分頃より

晋山式 稚児行列に導かれ報恩寺に新命住職が進み入ります。

午前9時30分頃より

晋山開堂 就任のお祝いと新命の力量を問う大問答が繰り広げられます。

午前10時30分頃より

首座法戦式 新命の一番弟子が、住職に成り代わり、修行僧と禅問答を戦わせます。

午後12時頃より

報恩寺二十八世良興大和尚大祥忌
先代良興大和尚の三回忌法要をいとなみます。

午後12時40分頃より

檀信徒総回向 檀信徒の皆様のご先祖さまの供養と、皆様の家門繁栄、子孫繁栄、諸災消除、諸縁吉祥を祈願いたします。

駐車場に限りがございますので、なるべく乗り合わせのうえお越しください。

お祝いの式典がメインとなりますので、ご参列される場合は慶事の服装でお願いいたします。

晋山式当日はインターネットでライブ配信をする予定です。詳しくは「おたすけ観音 報恩寺」のホームページ、または「おたすけ観音報恩寺のFacebook」をご覧ください。



記念撮影用スクリーン

晋山結制のお稚児さんの記念撮影用にグラウンド入口左側に、報恩寺の境内の写真に鎮守様である、白山妙理大権現さまのイラスト入りのスクリーン（高さ4メートル・幅6メートル）を設置します。

白山妙理大権現さまは、水の霊力をつかさどる龍神であり、女神の姿で信仰されています。子どもたちの健全な発育と、学業成就、身体健全、無病息災を祈願いたします。
撮影用スクリーンは5月末日まで掲示いたします。

特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

平成30年6月 柏木 公男 様

平成30年7月 橘川 雅弘 様

平成30年12月 平田 敏子 様

平成30年12月 重森 淳子 様

平成31年2月 奥津 寛保 様

白山拝登

晋山式を執り行うにあたり、円満成就を祈願するため、平成30年8月21日・22日の日程で石川県の白山に登ってまいりました。白山は富士山、立山とならび「日本三名山」の一つに数えられ、古くから人々が仰ぎ見て、祈りをささげてきた山であり、修験の場として栄えてきた信仰の山です。また、白山妙理大権現さまは、大本山永平寺の鎮守さまであり、曹洞宗開祖、道元禪師さまも篤く信仰されていました。

白山は永平寺安居中に2回、青年会の研修で1回と合計3回の登山経験があります



錫杖を持った雲水

が、今回は即心会（神奈川県東部、東京都多摩地区の曹洞宗寺院の研修会）のご縁で白山拝登の機を得ました。

まずは、鎮守さまを大切にすることの重要さを学び、体力づくりから始め、装備を整えていきました。最近では空前の登山ブルムということでアウトドア用品が充実しており、機能的に優れたものが簡単にそろいます。準備万端、装備がそろったところで、昭和50年代の永平寺雲水が白山拝登をしている写真を目にし、網代傘、道中衣、手甲脚絆、わらじ、という神々しい出で立ちに心を奪われてしまいました。私もこの姿で白山拝登に臨みたいという思いに駆られ、ホコリまみれになっていた網代傘をひっぱりだし、あらたに道中衣を衣屋さんに注文しました。

しかし、雲水姿で行くということは体力的には負担が増えるということ、以前、雲水姿で白山拝登に臨んだのは20代のこと、今や還暦を目の前にして、体力作りもおろそかにしているこの身で、標高2700メートルの登山を全うすることができるのか心配になってきました。そこで、網代傘、道



室堂にて鎮守諷経

中衣のほかは最新の装備で行くことにしました。

体力も作っていかねばならないので、遅まきながら3か月前の5月からウォーキングを始めました。「体を動かし汗をかくのは気持ちいい」などと思っていると、ウォーキングを初めて2週間ほど経過したころ左ひざに違和感があります。症状はだんだん酷くなり、ついに正座をすることが出来なくなっていました。病院に行って診察してもらい、「転んだとか、ぶつけたとか、何か思い当たることはありませんか」と尋ねられたので、「最近ウォーキングを始めました」と告げ、レントゲンを撮ってもらいました。なんと、原因はウォーキングでは

なく「加齢により膝の関節軟骨がすり減って炎症をおこす」ということでした。さらに、「二番よくないのは正座です。」と言われ大シヨックを受け、本堂でのお勤めは椅子に切り替え、「膝を支える周辺の筋肉を維持するためにもウォーキングは推奨」ということなので、痛み止めを服用し、膝のサポーターを着用しウォーキングを続けました。

いよいよ8月21日、白山拝登当日、漲る気力と体力、万全の態勢で登山口に向かいます。

6時10分 標高1245mいよいよ登山開始、はやる気持ちを抑えゆっくりと登っていきます。



トリカブト

登り始めて2時間ほどしたところから、左足のふくらはぎがつり始め、3時間を経過したころには両足がつってしまい、みんなについていくことが困難になってきました。今回、登山の様子を動画で撮影しようと常にカメラを手に持ったため、ストックを持たずに臨みました。20年前青年会の研修で登った時は研修会のメンバーでストックを使っていたのは私だけでした、しかし今回ストックを持っていないのは私だけです。「万全の態勢のはずだったのに」と思いながら、ストックに代わるものとして、携帯用の三脚と自撮り棒を組み合わせ杖代わりにしました。偶然ですが何となく錫杖をもった雲水のようなスタイルになりました。

登山開始から5時間20分、午前11時30分、本隊に遅れる事30分、なんとか室堂のビジターセンターに到着、鎮守諷経を勤め晋山式の円満成就を祈願しました。

高山植物を撮影しながら、花の名前がわかるようにと持って行った携帯用の植物図鑑も全く見る余裕もなく、撮った花の写真は休憩したところに偶然咲いていたトリカブトのワンショットのみでした。



網代笠にポンチヨ

登山途中、雨が降ってきたのでポンチヨを着用していたのですが、やはり雲水風のいでたちは保たれていたようで、何人かに「お坊さんですか」と声を掛けられました。その一人に、「亡くなった妻が白山さまの信者だったので四十九日の供養に、こうして白山に登りに来ました。ここでお坊さんに会えるなんて感激です。良い供養の登山が出来ました。」と手を合わせ拝まれました。

信仰の山を33年ぶりに雲水姿で拝登しましたが、僧侶としての責任を強く感じました。

次回はストックを持って、鎮守諷経を勤めに拝登させていただきたいと思います。